

チャベス改革路線を再確認した地方選

12月8日、ベネズエラ全土の355の基礎行政区で市長・行政区議員を選出する一斉地方選挙が行われました。登録有権者数19,066,431人のうち、58.92%が投票しました。投票率はこれまでになく高く、ニコラス・マドゥーロ政権下の初めての全国一斉選挙で、経済困難が見られる中で、有権者の関心が高いことが示されました。

選挙結果は、開票率97.52%で、当初苦戦が伝えられたベネズエラ社会主義統一党(PSUV)を中心とする左派同盟、「偉大なる祖国勢力(GPP)」が、5,111,336票(49.24%)を獲得し、4,435,097票(42.72%)を獲得した右派の民主団結会議(MUD)に6.52%の差を付けて勝利を収めました。

市長選では、PSUVが64の未確定行政区を残し、210を獲得し、53を獲得したMUD陣営の大きな差を付けました。

「偉大なる祖国勢力(GPP)」には、ベネズエラ社会主義統一党、ベネズエラ共産党(PCV)、共同体変革党(REDES)、ベネズエラ人民団結党(UPV)、人民選挙運動(MEP)、社会民主主義党(PODEMOS)他、多くの大衆組織が参加しました。一方、反政府派のリーダー、エンリケ・カプリーレスが主宰するMUDには、正義第一党(PJ)、新時代党(UNT)、人民の意思党(VP)、民主行動党(AD)、キリスト教社会党(COPEI)、社会主義運動(MAS)、人民の意思党(VP)などの保守勢力が結集しました。今年4月の大統領選挙同様、左右の政治勢力が激突した熾烈な選挙戦でしたが、大きな混乱もなく選挙戦が戦われ、ベネズエラ国民の民主主義に対する見識が示されたものとなりました。

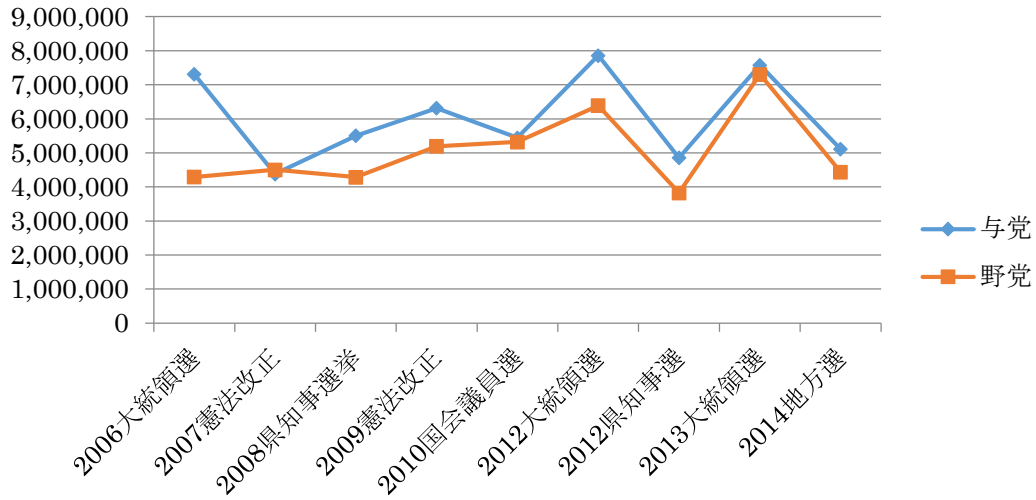
選挙後、カプリーレスは、「ベネズエラでは、だれも主人でないことが明確になった。ベネズエラは、団結と対話を必要としている」と、これで昨年からの3回続いた敗北を反省しない態度をとっています。

一方、マドゥーロ大統領は、「ベネズエラ国民は、世界に対し故ウーゴ・チャベスのポリアル革命は、引き続き力をもっていることを示した」と述べ、チャベス路線への愛と忠誠を誓いました。

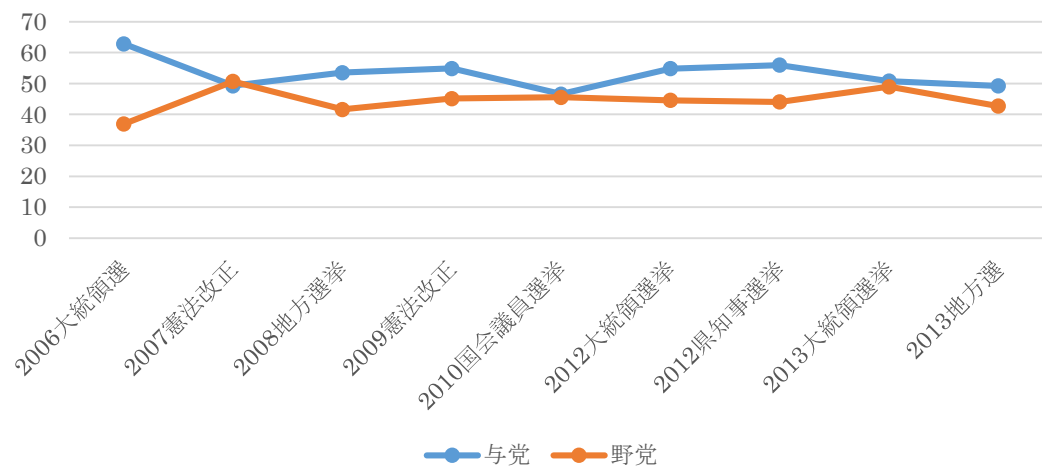
今回の選挙結果は、90年代に新自由主義政策で悲惨な生活状況に陥れられた貧困層、社会的弱者への社会政策、ベネズエラの経済的自主権を回復する政策について、幅広い国民が継続することを確認した選挙だったと言えるかもしれません。今回の地方選挙についてのより詳細な分析は、別な機会に行いたいと思います。

(2013年12月9日 新藤通弘)

ベネズエラ選挙・国民投票推移2006-2013



各種選挙得票率推移%



当別獲得市長数

